2026 年 12 月号（通巻 211 号）

山正ニュース

山正公式 LINE　友達募集中！
お得なキャンペーン情報はこちらより↓

株式会社 YAMASHO 山正
https://yamasho.style/

1　特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」の猛威

本年度の山正ニュース8月号にても掲載しましたが、最近になりまた新聞紙上やテレビで「クビアカツヤカミキリ」の話題が頻繁に出ております。農水省がこの特定外来種に指定された「クビアカツヤカミキリ」の駆除に特別予算を付与したこともあり、樹木類、特にサクラやウメなどへの被害拡大の予防に全力を挙げて取り組む姿勢です。今月は、クビアカツヤカミキリについてさらに詳しくご紹介します。



「クビアカツヤカミキリ」は、平成 24 年に国内で初めて確認され、それ以降全国各地で発見されるようになりました。2026 年 8 月現在では、岐阜県を含め 22 都府県で侵入が確認され、岐阜県においては海津市内のサクラ 1 本に終齢幼虫を確認され、令和 8 年 3 月にサクラ、10 月にウメ（生産園地）への加害で「特殊報」を発出されました。

【特定外来生物】とは、海外から日本に持ち込まれた外来種のうち、農林水産業に被害を及ぼすもの、または及ぼすそれがあるものとして、外来生物法により国が指定した生物です。指定されると原則として以下の行為が法律で禁止されています。①飼育・栽培・保管・運搬、②輸入、③譲渡・販売、④野外への放出・植栽・播種

＜クビアカツヤカミキリの特長＞

- バラ科の樹木、サクラ・梅・桃を好み、細い樹より太い樹の方が食害されやすい。
- 被害樹の統計によると、根本から 200cm の高さが被害の約 95%を占めます。
- 成虫は飛び出した直後から繁殖活動ができるため、ライフサイクルが早い。
- 繁殖力が高く、1 回での産卵数で 1000 個を超える場合がある。

＜発見のポイントとなる「フラス」の検出＞



産卵後、孵化した幼虫は樹木の中へ侵入していき、木屑とフンが混ざったフラスを排出します。表面や根元に溜まったフラスを見つけたら食害されている証拠です。また、フラス孔が出ている穴の周辺をハンマーで叩いてみると、中が空洞であるような感触を感じる場合があります。この 2 点があればカミキリムシに浸食されたことが判断でき、排出されたフラスを確認してクビアカツヤカミキリか判別できます。

- 孵化したばかりの幼虫（体長 2 ㎜）は微粉状のフラスを生成するが樹外に出てきません。
- 若齢幼虫（体長 10 ㎜）が生成するフラス粒子は 0.2 ㎜程度です。※樹の表面を沿うように進んでいくため樹液を含まず比較的さらさらで風で飛んでしまうため樹皮には残りません。

(C) COPYRIGHT YAMASHO CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED.

- 体長 30 ㎜まで成長すると樹液を含む内樹皮を食害するため、樹液を含んだ塊状のフラスを排出し 2～5 ㎜の細長い「うどん状」になります。
- 体長 50 ㎜まで成長すると終齢幼虫と呼ばれ、フラスの粒子は 1.5 ㎜程度となります。成長が進むにつれて排出するフラスの粒子は大きくなります。
- クビアカツヤカミキリの卵は、ブラックライトに反応することが分かっており、発見のポイントの一つです。



※フラスの色は食べた樹木の部位によって異なるためフラスの色では判断できません。また、終齢幼虫まで成長すると、脱出用の穴を先に開け脱出の準備をします。樹皮一枚分残しているため目視では見つけにくいです。

＜樹木への処置の方法 ： 早期発見、早期駆除が大切です＞

A） 物理的防除

1） 伐倒駆除： 被害木を伐倒し、伐根して除去し、破砕、焼却処分する。
2） 幼虫補殺： フラス穴をたどり幼虫を取り除く
3） 網巻き ： 幼虫が他の樹木へ移動しないように目合いの細かいネットで閉じ込める
4） 成虫補殺： 成虫を見つけたら補殺する

B） 化学的防除

1） 樹幹注入剤の使用：幹から薬剤を打ち込み捕食中の幼虫を殺虫する
2） 樹木への薬剤散布：樹木全体に薬剤を散布して成虫を殺虫する
3） フラス孔からの薬剤注入：エアゾール剤(ロビンフッド等)や噴霧器による薬剤注入で幼虫殺虫



C） 生物的防除 ： 生物農薬（バイオセーフ）を使用した防除の実施

成虫に対しては樹木から脱出させない・寄せつけないことが重要です。「クビアカツヤカミキリ」は、トラックや荷物に紛れて移動することが報告されており、発見次第物理的に防除が必要になります。サクラやウメなどは、各地のイベントや観光名所になっているところが多く、本数もおおいため被害木の早期発見、早期対処を行わないと被害が拡大し、食害された樹の枯死や倒木につながります。被害が違うところに繋がる恐れがあるので、関係各所や地域住民にも協力してもらうなど、未処理の被害樹が他の樹に被害を与える側の加害樹にならないように、地域全体で守っていく必要があります。

クビアカツヤカミキリ対策薬剤　一覧

※令和７年３月１７日現在

薬剤名	作物	使用時期
樹幹注入		
アトラック	サクラ	幼虫発生前～発生期
ウッドスター	サクラ	新葉展開後～落葉前まで
フラス孔注入		
マツグリーン液剤２	サクラ	幼虫発生前～発生期
アクセルフロアブル	サクラ・モモ・ウメ	発生初期
ロビンフッド	樹木	発生初期

散布		
スミチオン乳剤	サクラ	成虫発生初期
	モモ	成虫発生初但し収穫３日前
	ウメ	成虫発生初期但し収穫１４日前
ダントツ水溶剤	サクラ	成虫発生初期
	ウメ	収穫前日まで
	モモ	収穫７日前
	スモモ	収穫３日前
マツグリーン液剤２	サクラ	成虫発生初期
モスピラン顆粒水溶剤	サクラ	成虫発生初期
	スモモ・モモ・ウメ	収穫前日まで
トルネードエース	サクラ	成虫発生初期
ロビンフッド	樹木類	成虫発生期

(C) COPYRIGHT YAMASHO CORPORATION. ALL RIGHTS RESERVED.